



VIA HOLDINGS INC.  
株式会社 ヴィア・ホールディングス

**第72期 事業報告書**  
2007年4月1日-2008年3月31日

ホームページではこの事業報告書のほか、ヴィア・グループに関する最新情報をリアルタイムで公開しております。ぜひご覧ください。

<http://www.via-hd.co.jp>

株式会社 ヴィア・ホールディングス

〒112-0014 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F TEL.03-5155-6801

JASDAQ  
(証券コード7918)

72

VIA GROUP ANNUAL REPORT 2008  
Year Ended March 31, 2008

## 豊かなライフスタイルの具現化—— それが私達ヴィア・グループの願いです。



平成15年4月に純粋持株会社へと体制を移行し、社名を株式会社ヴィア・ホールディングスとしました。以来、外食サービス事業と印刷流通事業を基軸とし、効率的かつ効果的な運営を推進してまいりました。あわせて、積極的なM&Aによる事業の拡大を図りながら、ヴィア・グループは着実な成長を遂げてきました。今後はメインのドメインにあたる外食サービス事業は「拡大と成長」に、印刷流通事業は「再編と再生」に集中した経営戦略を進めてまいります。

当期連結会計年度における当社グループの中核事業である外食サービス事業をとりまく環境は、外食の市場規模はほぼ横ばいで推移するなか、原材料費や人件費をはじめとする経費の上昇圧力が強まってきております。また、食品に対する不祥事による、消費者の食への不安再燃や、飲酒人口の減少、個人消費における外食機会の手控えムードなど、外食サービス事業にとって、厳しい経営環境が続いております。

こうした環境のもと、当社外食サービス事業は、既存事業の積極的展開と商品政策、新規業態の獲得によって、着実に規模の拡大を図ってまいりました。今期は、「食彩屋 一源」を全国展開する株式会社一源の株式を取得したほか、完全子会社である株式会社NBKが居酒屋業態の「北の家族」をはじめとする外食サービス事業を譲受し、当社グループの総店舗数は500店舗体制から600店舗体制に向けた躍進を遂げました。

また、印刷流通事業につきましても、依然として続く出版業界不況の中、デジタル受託事業を開始するなど、「情報加工企業」をキーワードに、クライアントの問題解決に貢献する新たな付加価値の創造に注力しながら、ビジネスフィールドを着々と拡げております。

わが国の経済状況の見通しにおいては、原材料費の上昇をはじめとする懸念材料はあるものの、企業収益の改善による景気回復は引き続き堅調に推移するものと思われます。当社グループ事業におきましても、既存事業の再生と拡大、およびM&Aで新規に取得した事業のバリューアップと再編をすすめ、世相の影響を受けない新たな価値の創造、従業員の豊かな喜びの追求、さらにはグループ全体のバリューアップを早期に実現してまいります。

今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社 **ヴィア・ホールディングス**  
代表取締役会長兼社長  
**横川紀夫**

# TOPICS

企業グループのスケール拡大と、バリューアップの着実な成果

## 01

TOPICS 2007-2008

### 「北の家族」をはじめ 12業態を譲り受けました

2008年2月、当グループの株式会社NBKは、セラヴィリゾート株式会社よりレストラン事業を譲受しました。これにより、全国主要都市に展開する和食居酒屋「北の家族」のほか、古城の監獄をテーマとしたエンターテインメントテーマレストラン「ザ・ロックアップ」、アラビアンナイトがコンセプトの「アラビアンロック」等の業態が、ヴィア・グループの一員となりました。今後もバリエーションに富んだ業態展開を強力に推進していきます。



## 02

TOPICS 2007-2008

### 「食彩屋 一源」、 ヴィア・グループの一員に

2007年10月、株式会社一源の株式の100%を取得しました。株式会社一源は、東京都・埼玉県・千葉県を中心とした駅前・高架下の好ロケーション立地において総合型居酒屋「食彩屋 一源」(直営31店舗)を展開しています。(株)一源が加わったことで、首都圏の新商圈を確保できるほか、当社グループの高いシナジー効果が期待でき、メインの事業領域である外食サービス事業の成長、さらには企業価値の増大に期待が高まります。

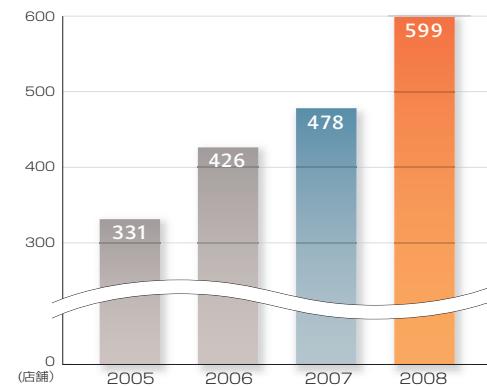


## 03

TOPICS 2007-2008

### ヴィア・グループ総店舗数、 600店舗体制に

既存事業の積極的展開とM&Aによる新規の業態獲得によって、ヴィア・グループの総店舗数は2008年5月31日現在で599店舗に達しました。次期事業年度における600店舗の達成は確実で、今後も安定した事業規模の拡大を目指します。



## 04

TOPICS 2007-2008

### フードリーム、 過去最高益を達成

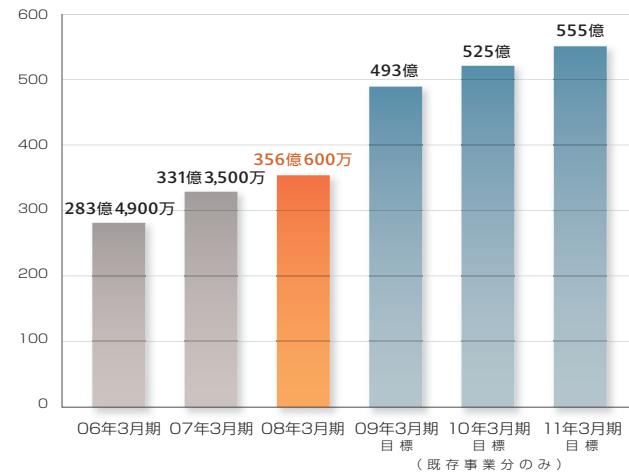
飲食店の集積地を主たるステージに、バリエーションに富んだ業態を展開する株式会社フードリーム。今期を第二成長期の初年度と位置づけ、収益構造の徹底的な見直しと改革に取り組んだ結果、経常利益において過去最高益を達成しました。今後の積極的な展開が期待されます。



2008年3月期連結決算は、売上高**356億600万円**  
 経常利益**2億6,900万円**となりました。

2009年3月期は、売上高**493億円**(前期比**38.5%増**)  
 経常利益**16億円**(前期比**492.7%増**)を目指します。

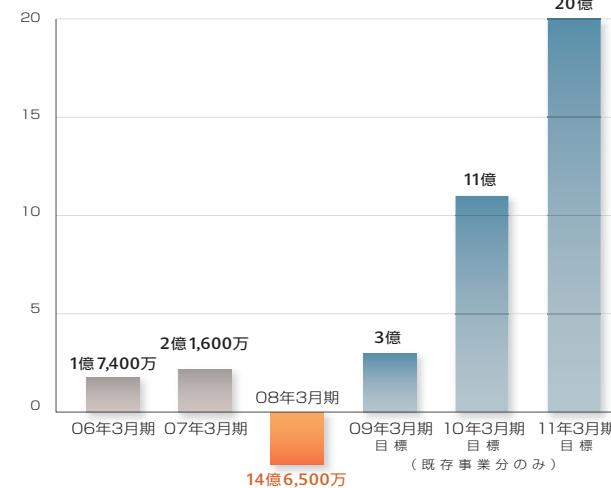
売上高



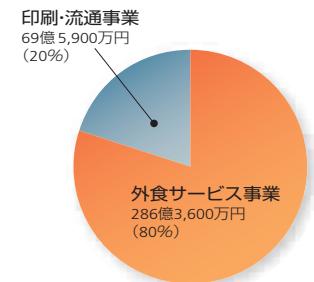
経常利益



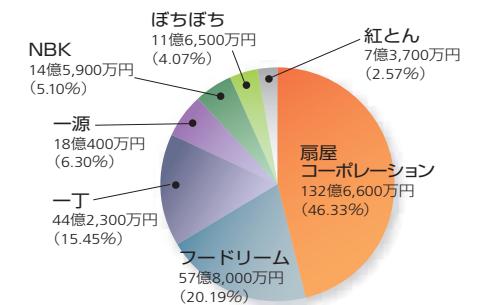
当期純利益



セグメント別売上比率



外食サービス事業の会社別売上比率



業績の状況

当社グループの外食サービス事業においては、「既存業態のブラッシュアップ」「積極的な新規出店」「M&Aによる事業規模の拡大」といった施策を推し進めた結果、売上高は前年を上回る業績で推移いたしました。一方で、既存店のロードサイド店を中心に売上減少や、新規出店にかかる一時的な費用負担の増加が重なったことで、収益の低下を避けることができませんでした。

また、印刷流通事業につきましても、依然として主要顧客である出版業界からの受注が減少するなか、(株)晁印刷、(株)ワールドプランニングによる「情報加工企業への転換」「デジタル事業の強化」、(株)日本システムによる「エンターテインメント事業の推進(ゲームソフト開発等)」、(株)パチャコム・ジャパンによる「オーガニック

惣菜製品の商品化」など、様々な政策に着手しましたが、大幅な収益の回復を図るには至りませんでした。加えて、将来の回収可能性を保守的に評価し、(株)晁印刷の固定資産除却損、(株)日本システムののれん未償却分の減損処理を実施するとともに、グループの経営ノウハウが相乗的に発揮されない分野(フィットネス、オーガニック惣菜製品)から早期に撤退することいたしました。

以上の結果、当連結会計年度の当社グループの売上高は、前期比7.5%増の356.606億円となりましたが、営業利益は、前期比64.1%減の41.11億円、経常利益は、前期比74.2%減の2.69億円となりました。また、特別損失として減損損失等1.685億円を計上したことにより、当期純損失は1.465億円となりました。

次期の見通し

今後のわが国経済は、海外経済や原油価格の動向など不安材料があるものの、引き続き景気は堅調に推移するものと思われます。

当社グループの関連する外食サービス事業及び印刷流通事業につきましては、景気全般の回復とともに少しずつ上向いていくと思われませんが、依然として厳しい状況が続いております。

この様な状況の中、当社グループは引き続き既存事業の拡大と新規事業開発に注力し、業績の拡大と安定的に利益計上できる企業体質を確立すべく努めてまいります。次期の連結業績見通しにつきましては、売上高49.300億円、営業利益1.900億円、経常利益1.600億円、当期純利益300億円を見込んでおります。

連結財政状態

総資産 **314.9億円**      純資産 **69.4億円**      純資産比率 **22.0%**

## 堅調な利益の拡大と安定成長を目指して

当社グループはこの中期経営計画における3年間で「ヴィア・グループの新たな飛躍に向けた足場固めと成長期間」と位置づけ、確実な利益成長による中長期的に安定したさらなる成長を実現していきます。



### ▶ 既存事業の再生と拡大

外食サービス事業の既存業態については、立地特性に応じたコンセプトの再設計を行うとともに、顧客の価値観にマッチした商品政策の導入を進めてまいります。また、覆面モニター制度を通じて顧客ニーズをタイムリーにつかむことで、より顧客満足の実現に向けたサービスの表現と商品のレベルアップを図ってまいります。店舗運営のマネジメントについては、従業員ひとりひとりに対する教育の充実と技術の研鑽を通じ、従業員満足(ES)を向上させるとともに、労働生産性の向上を進めてまいります。商品政策については、各社の自由度を残しつつ、グループ全体でのスケールメリットを活かした食材原価の維持・低減を行ってまいります。出店戦略については、各社別に出店の投資回収基準を設定し、より効果的かつ効率的な出店を慎重に行ってまいります。

また、印刷流通事業については、既存の印刷事業を中心にデジタル事業やセールスプロモーションの企画といった業際事業の高収益化を目指し、シナジー効果も加えた統廃合も視野に入れ確実な利益水準の確保と安定的な成長を目指します。

### ▶ 新規取得事業について

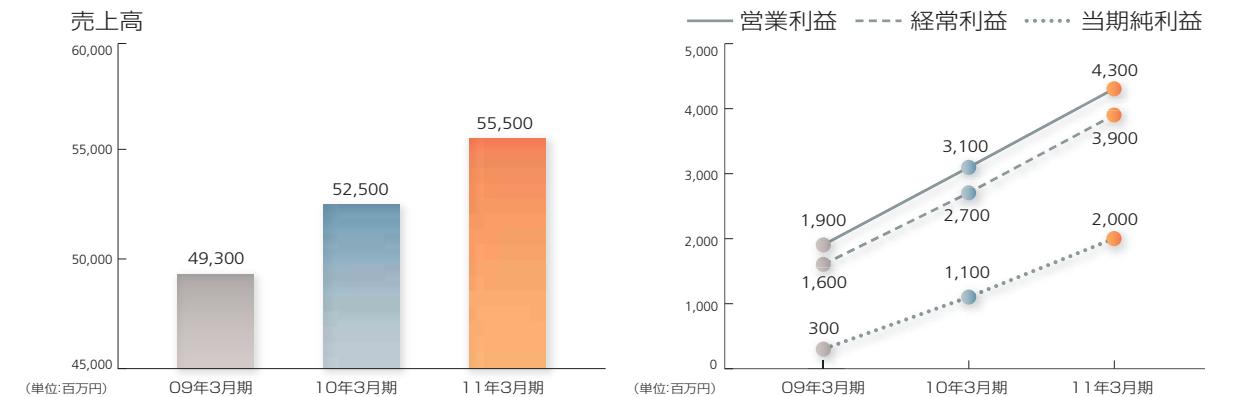
株式会社一源の「食彩屋 一源」業態については、業態の磨きこみを行うとともに、店舗マネジメントの効率化を進めてまいります。また、商品についても立地特性に応じたメニューバリエーションを設定し、顧客のニーズの深堀を進めてまいります。また、セラヴィリゾート株式会社より「北の家族」業態と「エンターテイメントレストラン」業態を譲受しましたが、「北の家族」業態については個室を強みとした和風居酒屋というコンセプトを磨きこむとともに、グループのスケールメリットを活かし、商品の品質向上を図りつつ、原価低減を目指します。「エンターテイメントレストラン」業態については、顧客の体験価値を図るため、コンセプトのブラッシュアップのみならず、新コンセプトへの挑戦を進めてまいります。

### ▶ 内部統制の強化とコンプライアンスの遵守

偽りのない情報の公開や安心・安全の確保、環境保護への配慮など、確固とした企業倫理を確立し、社会の一員としての責務を果たしてまいります。そのために内部統制の強化に積極的に取り組み、オープンで公正な企業カルチャーの構築を目指してまいります。具体的には、各社に分散している事務管理部門を内部統制の観点から統合し、業務プロセスとマネジメントの改善を進めると同時に、内部牽制機能の強化を図ってまいります。また、グループ食品衛生委員会を立ち上げ、グループ共通の安全基準を策定し、食材および店舗の状態についてもモニタリング機能を強化してまいります。

### ▶ 数値目標

本中期経営計画では、3年後の2011年3月期に売上高555億円(当期比155.9%)、営業利益43億円(当期比1,046%)、経常利益39億円(当期比1,450%)、当期純利益20億円(当期比+34.6億円)の達成を目指します。



# 業容の積極的な再編と体制強化で ヴィア・グループは日々進化しています

## VIA GROUP



### 株式会社 ヴィア店舗開発

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-2801  
設立 2006年10月24日  
代表者 代表取締役社長 亀田直樹  
事業内容 店舗の立地開発、メンテナンス事業の運営



### 株式会社 晷印刷

所在地 東京都文京区関口1-44-4  
TEL.03-3268-3155  
設立 2005年4月1日  
代表者 代表取締役社長 中野二郎  
事業内容 書籍・雑誌印刷、商業印刷、デジタル事業(電子書籍等)、物販流通資材卸売

### 株式会社 紅とん

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-2291  
設立 2003年10月22日  
代表者 代表取締役社長 白山良則  
事業内容 居酒屋「日本橋紅とん」の展開



### 株式会社 扇屋コーポレーション

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-6926  
設立 2001年7月2日  
代表者 代表取締役社長 大場典彦  
事業内容 焼き鳥居酒屋「総本家備長扇屋」の展開



### 株式会社 NBK

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-6813  
設立 2006年1月10日  
代表者 代表取締役社長 三甲野隆優  
事業内容 居酒屋「北の家族」およびエンターテイメントレストランの展開



### 株式会社 フードリーム

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-6832  
設立 2001年7月1日  
代表者 代表取締役社長 廣瀬雅孝  
事業内容 SC内を中心とした外食店舗の展開(双鷗亭・オープン亭・ベッパベール他)



VIA HOLDINGS INC.  
株式会社 ヴィア・ホールディングス

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-6801  
設立 1948年2月26日  
代表者 代表取締役会長兼社長 横川紀夫  
代表取締役副会長 三甲野隆優



### 株式会社 一丁

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-6812  
設立 1978年12月14日  
代表者 代表取締役社長 阪本保廣  
事業内容 刺身居酒屋「うおや一丁」の展開



### 株式会社 一源

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-3239  
設立 1970年6月1日  
代表者 代表取締役会長 三甲野隆優  
代表取締役社長 佐伯浩一  
事業内容 居酒屋「食彩屋 一源」の展開



### 株式会社 ぼちぼち

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F  
TEL.03-5155-6890  
設立 2005年4月1日  
代表者 代表取締役社長 西野美勝  
事業内容 鉄板お好み焼居酒屋「ぼちぼち」の展開

## 傘下9社による強固な企業グループを再構築

外食サービス事業を軸に、多様化する価値観に即応しながら、  
知的好奇心を満たす豊かなライフスタイルを提案——。  
多角的な視野にたち魅力ある企業グループへ成長を遂げるヴィア・グループは、  
時代の趨勢を敏感にキャッチしながら新たな価値の創造に向け、  
幅広いフィールドでのビジネス展開を目指して邁進しています。



株式会社 扇屋コーポレーション  
OHGIYA CORPORATION INC.



### 扇屋ブランドの強化とお客づくりへの挑戦

焼き鳥居酒屋「備長扇屋」は、2008年3月末日現在、全国に353店舗(直営263店、フランチャイズ90店)を展開し、2007年度の飲食業ランキング(日経MJ)では、売上高部門で全国94位の業績をあげることが出来ました。

こうしたなか、扇屋ブランド力のさらなる強化に向けて、商品面では、「安全・安心・安定」の食材調達をはじめ、焼き鳥や釜飯といった主力商品のバリューアップ、提供温度や提供時間といった基本価値の徹底に力を入れています。

また、当社商品の大きな特色を作り出す備長炭の研究開発、店舗排煙設備への積極的な投資を行なう一方、酒類を提供する店舗としての社会的責任を果たすべく、カラーコースターを使った当社独自の『飲酒運転防止オペレーション』を考案。運転者や未成年者に対する酒類の提供禁止の徹底に、全店・全社をあげて取り組んでいます。

これからも、地域から愛され信頼される「備長扇屋」づくりをキーワードに、国内1000店舗体制の実現に果敢に挑んでまいります。

代表取締役社長 大場典彦



株式会社 NBK  
NBK INC.



### 経営基盤の再構築と 収益性の飛躍的向上を目指す

株式会社NBKは、関東圏をはじめ宮城県、新潟県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県の主要な大都市に和食居酒屋「北の家族」をはじめ、中世ヨーロッパの牢屋敷をテーマにしたエンターテインメントテーマレストラン「ザ・ロックアップ」、アラビアンナイトをテーマにした「アラビアンロック」等、現在12業態の飲食店69店舗を全国展開しています。主力の「北の家族」におきましては個室を中心に家族的な居心地感の良さを充実させ、特に料理にこだわり北海道の食材を使用したお値打ちのあるメニューを開発し、クオリティの高い商品とサービスの提供をしております。また、「エンターテインメントテーマレストラン」においては、探究心と好奇心をくすぐるような“ワクワク・ドキドキ感”のあるパフォーマンスや感動と驚きのあるメニューを常に追求し、ファンタスティックな世界を繰り広げていきます。

今後は更に各業態に磨きをかけ多店舗化を図ると共に、新業態開発も積極的に推進してまいります。

代表取締役社長 三甲野隆優



株式会社 フードリーム  
FOODREAM INC.



### 「もっとおいしく! もっと楽しく!!」をスローガンに

株式会社フードリームは、本格手ごねハンバーグの「オープン亭ファミリータイプ」や同一価格で3サイズが選べる茹であげパスタの「オープン亭パスタタイプ」、総合中華飯店の「双語亭」、本格的イタリアン「ベッラベ〜ラ」が主力です。ショッピングセンターや駅ビルなど、飲食店の集積地を主な事業拠点に、12業態76店舗を22都道府県に展開しています。2007年度は、将来に向けた規模の拡大に備え、既存店の収益力強化にウエイトをおいて、多くの施策を実行してきた結果、当該年度の経常利益は、過去最高を記録することができました。2008年度は、「もっとおいしく! もっと楽しく!!」をスローガンとして、さらなる業態収益構造の改革に主眼をおきながら、商品とサービスのブラッシュアップに取り組み、お客様の満足度をさらに高めてまいります。また、規模の拡大を見据えて、主力業態のリモデルにも着手し、新しい業態の開発にも取り組んでいく所存です。マルチブランドサプライヤーとしての、フードリームのさらなる飛躍にぜひご期待ください。

代表取締役社長 廣瀬雅孝



ICCHO INC.

株式会社 一丁  
ICCHO INC.



### さらなる成長と発展に向けて

株式会社一丁は、鮮度・ボリューム・お値打ち価格でお客様の支持をいただいている刺身居酒屋「うおや一丁」を、直営19店、フランチャイズ6店を展開しています。

2006年度の業績改善を基盤に、昨年度は4店舗の新規出店を行って事業基盤を拡げました。商品面では、刺身・カニ・寿司を基軸商品に、より一層のお値打ち感を訴求して競合他店との差別化を図ってきました。今後の成長・発展に向けて、2008年度は、「商品力強化」と「サービス改革」をテーマに、お客様からの圧倒的な支持をいただける「一丁ブランド」を確立したいと考えております。

商品力強化においては、「近海物・天然物」、「旬」、「北海道産」、「安心・安全」をキーワードとし、またサービス改革では「スピード+正確さ+親切さ」をモットーに、お客様満足を推進してまいります。2010年度、直営30店体制に向けての「うおや一丁」の挑戦にご期待ください。

代表取締役社長 阪本保廣

一源

株式会社 一源  
ICHIGEN INC.



### 再生から創造へ

2007年10月にヴィア・グループに加わった一源は、総合型居酒屋「食彩屋 一源」を展開しております。4月末現在、埼玉・千葉・東京を中心に31店舗を出店する株式会社一源は、「一生懸命商いし、幸せを創造しよう」を経営理念とし、それを具現化すべく日々努力してまいります。

今期からは行動指針として「一源(i-chi-gen)」をなぞり、「愛情(i)」「知恵(chi)」「元気(gen)」の3つの柱を設けました。「愛情」とは、お客様をはじめ、関わった方すべてを幸せにしたいという心です。「知恵」とは、すべてのお客様に満足していただくための技術です。「元気」とは、お客様に笑顔を運ぶための姿勢です。今期はこの行動指針に沿った人材育成を推し進め、既存店の集客力を強化してまいります。

中期経営計画の初年度にあたる今期は「再生から創造へ」をスローガンとし、商品・サービス両面で、時代に即した価値を創造してまいります。今後の一源にぜひご期待ください。

代表取締役社長 佐伯浩一



BOCHI BOCHI INC.

株式会社 ぼちぼち  
BOCHI BOCHI INC.



### 既存店を磨きあげ、積極出店で規模の拡大へ

大阪下町の味 お好み焼「ぼちぼち」は、昭和30年代の大阪下町をテーマとしたレトロな癒しの空間で、特注大鉄板で焼き上げる本場大阪のお好み焼と、美味しさを追求した鉄板焼をお客様に提供する、「手作り」にこだわった業態です。当期の「ぼちぼち」は、きたるべき規模の拡大に備え、既存店の収益力強化に軸足を置き、強い人材を育成しながら、事業の基盤づくりに力を注いできました。年間5回のメニュー改定に代表される積極的な商品政策を軸に、料理提供時間の短縮等オペレーション力の強化を進め、客数の増加、売上高の増加、収益率の向上を実践。その一方で、高い調理技術と接客技術を実現するための技術体系の構築を続け、継続的訓練を実施し、新人事制度の運用による活力のアップ等、組織力の強化にも注力してきました。さらに、規模の拡大へ向け出店を再開し、23区内への新規出店を実現しました。

また現在、成熟マーケットである飲食業界における次世代コンセプト「アフリカ」がテーマの新業態「マイマイ」のブラッシュアップと収益力向上にも挑戦しています。私どもは、さらなるお客様の感動のために、現場力を強化し、既存店をびかびかに磨き上げ、コンセプト力を向上させながら、積極的な新規出店による規模の拡大に取り組んでまいります。

代表取締役社長 西野美勝



株式会社 紅とん  
BENITON INC.



### 急速展開への足固め

「日本橋 紅とん」は、昭和のガード下の雰囲気のある「旨い新鮮な豚モツ」を中心とした炭火串焼き専門店です。都内を中心に2008年3月末現在、直営13店、フランチャイズ6店を展開し、サラリーマンのお客様を中心に支持を得ています。

2007年度は、立地特性の異なる8店舗の新規出店を果たしました。また既存店においては、12ヶ月連続で売上の前年超を実現し、さらに不振店を1店舗閉店し収益性の向上を実現しました。

今期は今後の「急速展開の足固めの年」と位置づけ、「おいしい・やさしい」をキーワードに、魅力的な紅とんらしい商品の開発・ブラッシュアップを続けていきます。店舗運営においては、既存店の収益性のさらなるブラッシュアップと、店長を中心に社員の調理技術・接客技術・マネジメント力の向上を進め、組織力の強化に力を注ぎ、全社員一丸となって着実な成長に向け邁進してまいります。今後の紅とんの成長にご期待ください。

代表取締役社長 白山良則



株式会社 暁印刷  
AKATSUKI PRINTING INC.



CTP出力機

「コンテンツ・プロデュース・カンパニー」を目指して

当社は2008年5月1日に株式会社ワールドプランニング、株式会社日本システムと統合することにより、新たな暁印刷として生まれ変わりました。印刷、情報加工、そしてエンタテインメント。今回、統合を成す各社の扱っているものはみな「コンテンツ」そのものです。各社の事業中核を「コンテンツ」と捉え直すことにより、三社の統合は、経営資源・情報・技術の共有化と効率化を高め、クライアントにより高度なサービスを提供できるよう、力を入れてまいります。また、今年度から名称を新たにコンテンツプロデュース部門の「クロスA」(SP&マーケティング事業部)、総合商社機能を持つ「ファームA」(商業流通事業部)を強化し、多様なニーズに対してマルチに応えることができるよう事業領域の拡大を図ります。優良有望な「コンテンツ」の所在発掘、多様な「コンテンツ」加工技術管理、適切な「コンテンツ」の販売など、「コンテンツ」ビジネスに関わる情報、技術、販売とクライアントに対しよりクオリティの高いサービスを提供するため、新しい概念である「コンテンツ・プロデュース・カンパニー」として更なる挑戦をまいります。

代表取締役社長 中野二朗



株式会社 ヴィア店舗開発  
VIA STORE DEVELOPMENT INC.

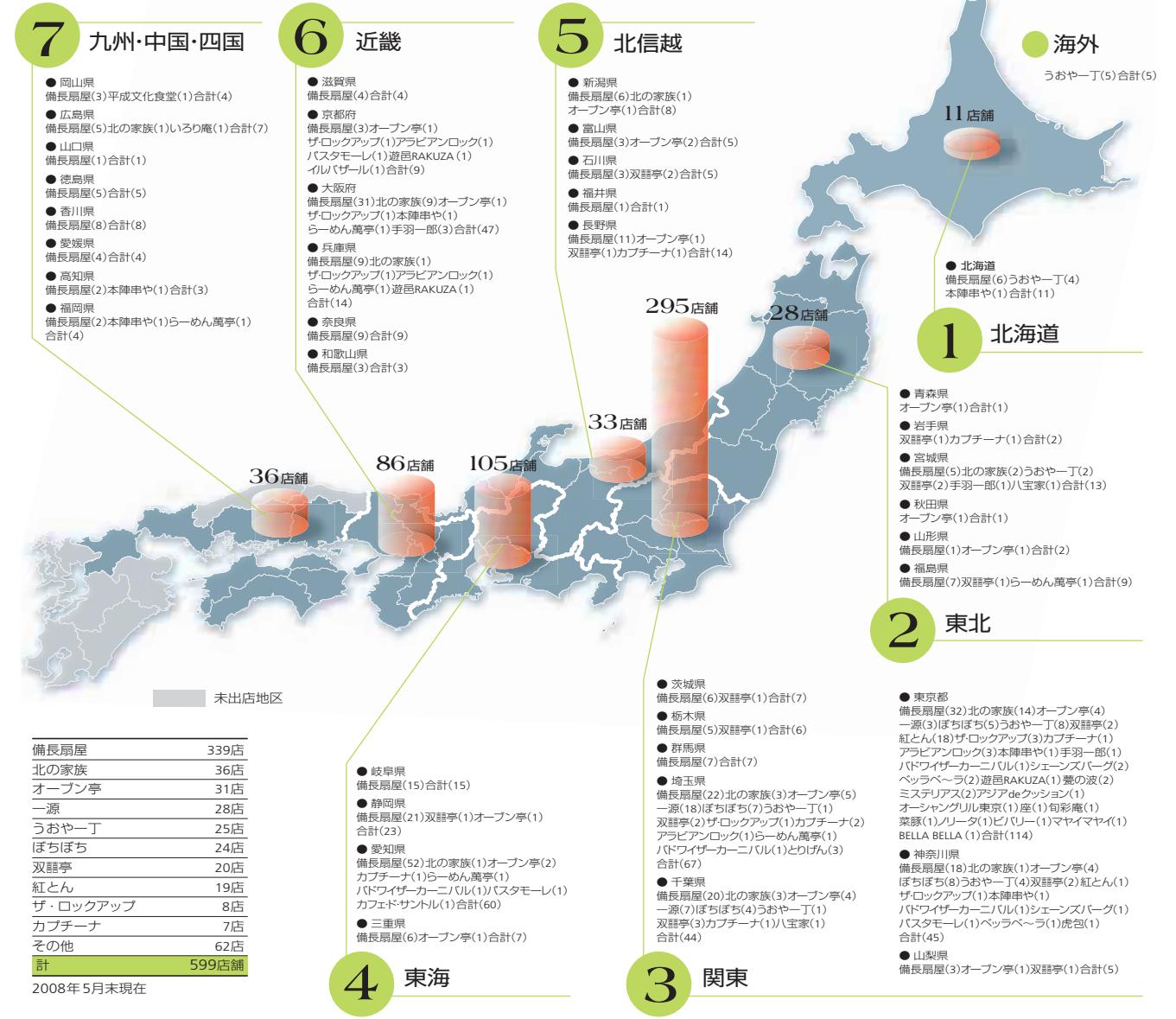


グループ各社の成長サイクルをバックアップ

株式会社ヴィア店舗開発は、グループ外食サービス事業における立地開発及び建築設備部門を統合し、2008年4月に発足しました。窓口の一元化による情報の共有と蓄積、効率性の向上及び各社の関係業務やコストの負担軽減を主たる事業目的とし、新規出店、店舗設備メンテナンス等を包括的に遂行してまいります。具体的には出店戦略を計画的に実行すべく、イニシャルコストに係る要素を多角的に分析し、ローコスト・ハイクオリティショップの開発に努め、投資回収サイクルの短縮を実現していきます。ランニングコストについては、経費軽減につながる機器の研究開発を行ない、無理や無駄のないオペレーションにつながる改善案を推進します。さらに、「地球環境に優しい店舗」をスローガンに、安全・安心で夢のある店舗造りを実践していく所存です。さらに、賃貸借契約内容についても適正条件を合理的かつ科学的に導き出し、オーナー様に納得していただけるよう交渉代行を行うことで、固定費の低減に寄与していきたいと考えます。

私共の様々な取り組みが、各社の利益に広く貢献、還元できるものと信じ、更なる発展の一翼を担うべく邁進してまいります。

代表取締役社長 亀田直樹



連結貸借対照表

単位:百万円

科目	資産の部	
	前期末 2007年3月31日	当期末 2008年3月31日
<b>流動資産</b>	5,415	5,843
現金及び預金	1,169	1,691
受取手形及び売掛金	2,763	2,438
有価証券	79	27
たな卸資産	651	577
繰延税金資産	147	183
その他	641	959
貸倒引当金	△37	△35
<b>固定資産</b>	19,471	25,646
<b>有形固定資産</b>	11,363	15,150
建物・構築物	7,664	10,723
機械装置・運搬具	573	598
工具器具備品	1,161	1,313
土地	1,756	2,419
建設仮勘定	207	95
<b>無形固定資産</b>	3,896	3,980
のれん <sup>*1</sup>	2,803	3,157
その他	1,093	823
<b>投資その他の資産</b>	4,210	6,514
投資有価証券	197	262
長期貸付金	19	14
敷金・保証金	2,794	4,952
繰延税金資産	1,011	1,116
その他	196	213
貸倒引当金	△7	△45
<b>繰延資産</b>	5	5
<b>資産合計</b>	24,892	31,495

科目	負債の部	
	前期末 2007年3月31日	当期末 2008年3月31日
<b>流動負債</b>	9,046	13,671
支払手形及び買掛金	2,920	3,367
短期借入金	4,070	7,079
未払金	595	1,313
未払費用	695	1,076
未払法人税等	106	105
賞与引当金	215	245
その他	442	482
<b>固定負債</b>	9,188	10,881
社債	—	100
長期借入金	8,500	10,299
その他	687	482
<b>負債合計</b>	18,235	24,552

科目	純資産の部	
	前期末 2007年3月31日	当期末 2008年3月31日
<b>株主資本</b>	6,635	5,061
資本金	2,736	2,738
資本剰余金	3,439	3,441
利益剰余金	462	△1,116
自己株式	△1	△1
<b>評価・換算差額等</b>	2	△60
その他有価証券評価差額金	2	△60
<b>新株予約権<sup>*2</sup></b>	10	41
<b>少数株主持分<sup>*3</sup></b>	8	1,900
<b>純資産合計</b>	6,657	6,943
<b>負債純資産合計</b>	24,892	31,495

コメント

※1. 10年間で均等償却しております。当期においては、(株)一源の株式取得により867百万円、(株)いらかの株式取得により175百万円が増加し、当期償却及び減損損失により984百万円が減少しております。

※2. 第4回ストックオプション(平成18年12月13日取締役会決議)の付与に基づいて計上されたものです。

※3. (株)NBKの資本のうち、当社以外の出資分(優先株式)であります。

連結損益計算書

単位:百万円

科目	前期 2006年4月1日～ 2007年3月31日	当期 2007年4月1日～ 2008年3月31日
	<b>売上高</b>	33,135
売上原価	15,461	15,606
<b>売上総利益</b>	17,673	19,999
販売費及び一般管理費	16,527	19,588
<b>営業利益</b>	1,146	411
営業外収益	210	237
営業外費用	310	378
<b>経常利益</b>	1,046	269
特別利益	70	14
特別損失	319	1,685
<b>税金等調整前当期純利益(△損失)</b>	798	△1,401
法人税、住民税及び事業税	184	162
法人税等調整額	398	△98
少数株主損失	△1	—
<b>当期純利益(△損失)</b>	216	△1,465

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

区分	前期 2006年4月1日～ 2007年3月31日	当期 2007年4月1日～ 2008年3月31日
	営業活動によるキャッシュ・フロー	2,141
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,657	△4,952
財務活動によるキャッシュ・フロー	△75	3,252
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△減)	△590	522
現金及び現金同等物の期首残高	1,760	1,169
現金及び現金同等物の期末残高	1,169	1,691

連結株主資本等変動計算書

2007年4月1日～2008年3月31日

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
2007年3月31日 残高	2,736	3,439	462	△1	6,635	2	10	8	6,657
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	2	2			4				4
剰余金の配当			△121		△121				△121
当期純損失			△1,465		△1,465				△1,465
その他利益剰余金増加額			8		8				8
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△63	31	1,891	1,859
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	2	2	△1,578	△0	△1,573	△63	31	1,891	285
2008年3月31日 残高	2,738	3,441	△1,116	△1	5,061	△60	41	1,900	6,943

単体貸借対照表

単位:百万円

科目	資産の部	
	前期末 2007年3月31日	当期末 2008年3月31日
<b>流動資産</b>	1,285	701
現金及び預金	555	311
売掛金	14	50
有価証券	79	27
前払費用	7	8
未収入金	400	245
立替金	116	20
繰延税金資産	29	31
その他	81	5
<b>固定資産</b>	12,618	15,401
<b>有形固定資産</b>	2,546	2,362
建物・構築物	972	892
工具器具備品等	10	16
土地	1,462	1,448
建設仮勘定	100	5
<b>無形固定資産</b>	266	469
商標権	52	45
ソフトウェア	211	390
その他	2	34
<b>投資その他の資産</b>	9,805	12,568
投資有価証券	131	217
関係会社株式 <sup>※1</sup>	4,626	3,979
敷金・保証金	95	95
関係会社長期貸付金	3,926	7,346
繰延税金資産	913	843
その他	112	111
貸倒引当金	-	△26
<b>繰延資産</b>	3	-
<b>資産合計</b>	13,907	16,102

科目	負債の部	
	前期末 2007年3月31日	当期末 2008年3月31日
<b>流動負債</b>	2,071	4,280
短期借入金	1,798	4,024
未払金	-	138
未払法人税等	155	10
未払費用	82	95
賞与引当金	1	2
その他	32	10
<b>固定負債</b>	5,099	6,223
長期借入金	5,064	6,190
その他	35	33
<b>負債合計</b>	7,170	10,503

科目	純資産の部	
	前期末 2007年3月31日	当期末 2008年3月31日
<b>株主資本</b>	6,721	5,599
資本金	2,736	2,738
資本剰余金	3,439	3,441
利益剰余金	547	△578
自己株式	△1	△1
評価・換算差額等	5	△42
新株予約権 <sup>※2</sup>	10	41
<b>純資産合計</b>	6,737	5,598
<b>負債純資産合計</b>	13,907	16,102

コメント

※1. (株)一源、(株)いらかの株式取得及び(株)NBK、(株)紅とんの増資引受による増加363百万円、(株)日本システム、(株)NBK、(株)パチャコム・ジャパンの株式評価損による減少1,010百万円によるものであります。

※2. 第4回ストックオプション(平成18年12月13日取締役会決議)の付与に基づいて計上されたものです。

単体損益計算書

単位:百万円

科目	前期 2006年4月1日～ 2007年3月31日	当期 2007年4月1日～ 2008年3月31日
	<b>売上高</b>	972
売上原価	-	-
<b>売上総利益</b>	972	887
販売費及び一般管理費	588	788
<b>営業利益</b>	384	98
営業外収益	95	179
営業外費用	129	169
<b>経常利益</b>	350	108
特別利益	70	2
特別損失	23	1,074
<b>税引前当期純利益(△損失)</b>	397	△962
法人税、住民税及び事業税	△247	△59
法人税等調整額	330	102
<b>当期純利益(△損失)</b>	314	△1,005

単体株主資本等変動計算書 2007年4月1日～2008年3月31日

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2007年3月31日 残高	2,736	3,439	547	△1	6,721	5	10	6,737
<b>事業年度中の変動額</b>								
新株の発行	2	2			4			4
剰余金の配当			△121		△121			△121
当期純損失			△1,005		△1,005			△1,005
自己株式の取得				△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△48	31	△16
<b>事業年度中の変動額合計</b>	2	2	△1,126	△0	△1,122	△48	31	△1,138
2008年3月31日 残高	2,738	3,441	△578	△1	5,599	△42	41	5,598

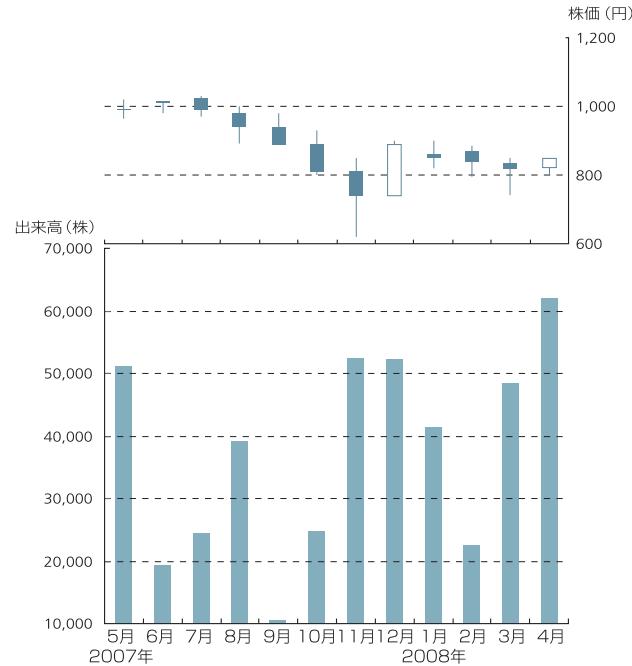
株式の状況

(2008年3月31日現在)

- ▶ 会社が発行する株式の総数 ..... 80,000,000株
- ▶ 発行済株式の総数 ..... 24,261,900株
- ▶ 株主数 ..... 669名
- ▶ 1単元の株式数 ..... 100株

大株主		
株主名	持株数	出資比率
横川紀夫	3,125千株	12.88%
アサヒビール株式会社	2,400千株	9.89%
株式会社エス・エイチ・コーポレーション	2,394千株	9.87%
株式会社 J・M・T	2,315千株	9.54%
株式会社 W&E	2,315千株	9.54%
株式会社 H・S・M	2,315千株	9.54%
株式会社エム・ティ・ケイ	1,520千株	6.26%
大関株式会社	615千株	2.53%
村上和子	540千株	2.23%
株式会社ウィルブランニング	440千株	1.81%

株価および売買高の推移



株主メモ

決算期	3月末日(年1回)	郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	6月中	電話照会先	[住所変更等用紙のご請求] ☎ 0120-175-417 [その他のご紹介] ☎ 0120-176-417
基準日	3月末日 臨時株主総会の開催その他必要があるときは あらかじめ公告して定めます。	同事務取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
権利確定日	利益配当金 毎年3月31日	公告の方法	当社のホームページに掲載します。 http://www.via-hd.co.jp/
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番3号 住友信託銀行株式会社	上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部	証券・銘柄コード	7918

CORPORATE IDENTITY コーポレート アイデンティティ

シンボルマーク



VIA HOLDINGS INC.  
株式会社 ヴィア・ホールディングス

人間の叡智の結晶「ピラミッド」をモチーフに、「総合力」「結束力」「永遠性」「上昇」「大志」を表現しています。

またシンボルカラーの  
V:「ブラック」は「宇宙=秩序、創造」を、  
I:「レッド」は「心=情熱、思いやり」を、  
A:「ブルー」は「水=生命、知性」を  
象徴しています。

ネーミング

VIAとは、「Valuable & Imaginative Addition」の頭文字の略称です。直訳すると「価値の高い、創造力に富んだ付加」、言い換えれば「世の中により新しい価値を創造していく」という意味を表しています。またVIAという言葉は、英語で「～經由で、～を媒介として」という意味を、ラテン語で「道」という意味を持ちます。これらの意味を合わせて、VIAという社名に「私たち独自の力を通して、世の中により新しい価値を創造し、未来への道を切りひらいていく」という意志を込めています。

GROUP PHILOSOPHY グループ理念

心が響き合う価値の創造

- ▶ 私たちは、卓越した先見力とマネジメント力により、グループ企業の専門力を相互に高め、ノウハウを統合し、革新的なライフカルチャーの創造を推進します。
- ▶ 私たちは、顧客の「心のニーズ」に応え、喜びと感動に満ちた新しい価値のイノベーションに果敢に取り組めます。
- ▶ 私たちは、創造力・自立心・情熱を中心とした「人間力」を最も大切な資産と位置づけ、その力が最大限に成長・発揮できる環境をつくります。

GROUP MISSION グループミッション

- ▶ 私たちは、顧客満足の最大化を第一の目的とします。
- ▶ 私たちは、オープンで公正な企業カルチャーの構築を通して、社員の生きがいや幸せの実現に努めます。
- ▶ 私たちは、取引先と公平で健全な関係を築き、お互いの大いなる成長を目指します。
- ▶ 私たちは、偽りのない情報の公開や安心・安全の確保、環境保護への配慮など、確固とした企業倫理を確立し、社会の一員としての責務を果たします。
- ▶ 私たちは、株主にたいする利益還元増大と、株価の維持・上昇に努めます。

会社概要

(2008年3月31日現在)

商号	株式会社ヴィア・ホールディングス VIA HOLDINGS INC.
所在地	〒112-0014 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F TEL.03-5155-6801
代表者	横川紀夫 三甲野隆優
設立	1948年2月26日
資本金	27.3億円
従業員数	15名

役員

(2008年3月31日現在)

代表取締役会長兼社長	横川紀夫
代表取締役副会長	三甲野隆優
常務取締役	正部一行
常務取締役	大場典彦
常勤監査役	河村博旨
監査役	岩村誠之
監査役	達本明

当社グループの従業員数 (2008年3月31日現在)

事業の種類	従業員数
外食事業	946名 (3,549名)
印刷・流通事業	163名 (38名)
その他	15名 (0名)
合計	1,124名 (3,587名)

※従業員数には、使用人兼務取締役は含まれておりません。  
※従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は1日8時間換算による年間の平均人員を( )外数で記載しております。